

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 27 日現在

機関番号：33102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24730179

研究課題名(和文) 景気循環における雇用・失業変動についての理論・実証分析

研究課題名(英文) Analysis on unemployment dynamics over business-cycles

研究代表者

宮本 弘暁 (Miyamoto, Hiroaki)

国際大学・国際関係学研究科・教授

研究者番号：10348831

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：当該研究の目的は景気循環上の雇用・失業変動を実証分析により明らかにし、その背後にあるメカニズムをマクロ経済学において労働市場全体を分析する際の標準的枠組みであるサーチ・マッチング理論を用いて体系的に分析することである。

日本および米国の労働市場における景気循環上の労働市場に関するファクトを整理した研究とサーチ理論による日本の労働市場の循環的特性を分析した研究を査読付き海外学術雑誌に掲載した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research project is to study behaviors of unemployment and employment over business-cycles both theoretically and empirically. This research project established several stylized facts on the cyclical behavior of the labor market in Japan and the U.S. I also examine a cyclical behavior of a search and matching model in the Japanese labor market. Outputs of the research project are published in international refereed journals.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・理論経済学

キーワード：経済理論 マクロ経済学 労働経済学 失業 サーチ理論 景気循環

## 1. 研究開始当初の背景

当該研究の目的は、景気循環上の雇用・失業変動を理論、実証の両面から分析することである。景気循環上、雇用・失業がどのように変動するかを分析するのはマクロ経済学および労働経済学の主要課題のひとつであり、理論、実証の両面から分析が進められている。景気が悪化すると企業の倒産や解雇・人員整理などによって職を失う労働者が増加すると同時に、雇用機会が減少することから失業者が職を見つけることが困難となる。この結果、失業が増加する。失業問題は経済政策上の最重要課題のひとつであり、労働市場の循環変動のメカニズムを理論的、実証的に明らかにすることは学術的貢献があるのみならず、政策的にも重要な課題である。

近年、米国を中心に景気循環上の失業変動のメカニズムについて理論、実証の両面から分析が進められているものの、日本の労働市場について分析しているものは少ない。失業は、失業プールへの労働者の流入・流出という労働力フローによって決定されるため、失業変動を分析するためには、労働力フローに注目することが不可欠である。実際に、米国の失業変動メカニズムを分析した最近の研究では、「失業変動の流入・流出分析」と呼ばれる労働力フローの変動によって失業の循環変動を分析する手法が用いられている。しかしながら、日本の労働市場における循環変動をこの手法を用いて分析しているものは少ない。筆者論文(Miyamoto, 2011; Lin and Miyamoto, 2011)では、「失業変動の流入・流出分析」の手法を用いて、日本においては無業者の流入・流出が無視できない大きさであり、労働市場の循環変動に大きな影響を与えていることを示した。この結果は、日本特有の現象であり、今後更なる実証分析により事実の確認作業が必要であり、その上で観察された事実の背後にあるメカニズムを理論的に分析することが必要である。

また、労働市場の循環変動を分析する際に標準的な枠組みを提供しているものにサーチ・マッチング理論があるが、最近、サーチ理論の循環的特性について批判がなされ、景気循環とサーチモデルの関係について活発な議論がなされている。サーチモデルの循環的特性を分析する際には米国の労働市場をその対象とする研究が多いが、その多くは失業プールへの労働者の流入・流出という労働力フローに注目している。一方、最近の実証研究では、米国では、これらの労働力フローに加えて Job-to-Job(JTJ)フローと呼ばれる労働力フローが労働市場の変動に大きな影響を与えていることが指摘されている。しかしながら、失業プールへの流入・流出および JTJ フローを同時に考慮したサーチ・マッチングモデルは数少ない。筆者論文(Miyamoto and Takahashi, 2011)では、これら 3 つの労働力フローを考慮したサーチモデルによって経済成長が長期の労働市場の変動に与える影響を理論、数量的に分析したが、この理論モデルが短期の景気変動が失業変動に与える影響を明らかにできるか今後、更なる分析が必要である。

さらに景気循環上の雇用調整を分析するために労働時間を考慮にいたした分析も重要である。企業の雇用調整は雇用者数と労働時間の 2 つの調整を通じて行われる。前者を extensive margin、後者を intensive margin と呼ぶが、景気循環上、企業がどちらのマージンを利用しているかを考察することは、学術的のみならず政策的にも重要である。しかしながら、従来のサーチモデルでは労働時間による雇用調整はそれほど分析されてこなかったというのが現状である。今後さらなる景気循環上の企業の雇用調整に関する事実の整理とそれを踏まえたモデル分析が重要である。

## 2. 研究の目的

当該研究の目的は景気循環上の雇用・失業変

動を実証分析により明らかにし、その背後にあるメカニズムをマクロ経済学において労働市場全体を分析する際の標準的な枠組みを提供しているサーチ・マッチング理論を用いて体系的に分析することである。

### 3. 研究の方法

本研究では、労働市場の循環変動の特性を実証的に分析し、その結果から得られた事実の背後にあるメカニズムをサーチ・マッチングモデルによって理論的、数量的に明らかにすることと、近年、労働市場のマクロ分析を行う際に標準的な枠組みとなっているサーチ・マッチング理論の循環的特性を分析することを目的としている。そのために、まず日本および米国の労働力フローデータの収集・整理を行い、その後、時系列分析の手法を用いて景気循環上の労働市場の変動を実証的に分析する。

次に、サーチ・マッチングモデルを拡張することで、実証研究で得られた結果を説明するモデルの構築を行い、カリブレーションおよびシミュレーション分析により、雇用・失業変動のメカニズムを定量的に分析する。

### 4. 研究成果

当該研究の目的は景気循環上の雇用・失業変動を実証分析により明らかにし、その背後にあるメカニズムをマクロ経済学において労働市場全体を分析する際の標準的な枠組みを提供しているサーチ・マッチング理論を用いて体系的に分析することである。

日本および米国労働市場の循環的特性を実証的に分析するため、両国における労働力フローデータの収集・整理を行い、「失業変動の流入・流出分析」と呼ばれる手法により、両国において長期における失業変動が離職率および就業率によって説明されることを明らかにした。この研究成果は“ The Ins and Outs of the Long-Run Unemployment Dynamics ” という論文として査読付き海外学

術雑誌 Applied Economics Letters に掲載された。

また、サーチ・マッチングモデルの循環的特性についても分析を進めた。サーチ・マッチングモデルを用いて労働市場の循環変動について分析を行う研究の多くではカリブレーションによりモデルのパラメータを決定した後、モデルの数量的特性を分析するのが通常である。しかしながら、いくつかの先行研究が指摘している様にカリブレーションによりモデルのパラメータを決定する方法には問題もある。そこで、平成 25 年度は、日本の労働市場における景気循環上の労働市場の動きがサーチ・マッチングモデルによってどの程度、説明できるのかをサーチモデルの構造推計を行うことで分析した。この研究は“ An Estimated Search and Matching Model of the Japanese Labor Market ” としてまとめ、査読付き国際学術雑誌 Journal of the Japanese and International Economies に掲載された。

### 5. 主な発表論文等

( 研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線 )

[ 雑誌論文 ] ( 計 5 件 )

1. Lin, C-Y. and Miyamoto, H. (2014) "An Estimated Search and Matching Model of the Japanese Labor Market" Journal of the Japanese and International Economies. 2014 Volume 32, 86-104.
2. Kato, R. R. and Miyamoto, H. (2013) " Fiscal Stimulus and Labor Market Dynamics in Japan " Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 30, 33-58.
3. Miyamoto, H. (2013) " The Ins and Outs of the Long-Run Unemployment Dynamics " Applied Economics Letters.

Vol. 20, Issue 7, 615-620.

4. Kakinaka, M. and Miyamoto, H. (2012)  
“ Unemployment and Labor Force Participation in Japan ” Applied Economics Letters, Vol. 19 Issue 11, Page 1039-1043.
5. Lin, C.-Y. and Miyamoto, H. (2012)  
“ Gross Worker Flows and Unemployment Dynamics in Japan ” Journal of The Japanese and International Economies. Vol. 26 Issue 1, 44-61.

[学会発表](計 6 件)

1. 近代経済学研究会、北海道大学経済学研究科、2013 年 7 月。報告：“ Fiscal Stimulus in an Endogenous Job Separation Model ” .
2. 現在経済学研究会、東北大学、2013 年 5 月。報告：“ Fiscal Stimulus in an Endogenous Job Separation Model ” .
3. The 9th Irvine-Japan Conference on Public Policy, University of California, Irvine. 2013 年 2 月。報告：“ Fiscal Stimulus in an Endogenous Job Separation Model ” .
4. Search Theory Workshop、大阪大学、2013 年 2 月。報告：“ Growth and Non-Regular Employment ” .
5. 成大財政論壇 租税理論財政政策研究会、台湾国立成功大学、2012 年 12 月。報告：“ Fiscal Stimulus in an Endogenous Job Separation Model ” .
6. International Workshop on Search Frictions and Labor Market Dynamics、北海道大学、2012 年 1 月。報告：“ On-the-Job Search, Endogenous Job Separation, and the Labor Market Dynamics ” .

[図書](計 件)

[産業財産権]  
出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

<https://sites.google.com/site/hiroswebs/ite/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

宮本 弘暁 (MIYAMOTO, Hiroaki)

国際大学・国際関係学研究科・教授

研究者番号：10348831

(2)研究分担者

( )

研究者番号：

(3)連携研究者

( )

研究者番号：